

読み切り文学講座 全9講

活字離れが進む中、じっくりと一冊の書物と向き合う時間を持つことも難しくなりました。書物に親しみ、文学の魅力に触れ、改めて文字やことばの持つちから、読書の醍醐味を思い起こしてみませんか。9人の講師がみなさまを文学の世界にいざないます。取り上げる作品は古典文学から現代小説までジャンルは多岐にわたりますが、文庫などで入手しやすいものを選びました。できれば、あらかじめお読みいただいたうえでお申し込みください。

- ◆日 程：平成 22 年 5 月～平成 23 年 1 月／月 1 回・火曜日／13：00～14：30
- ◆会 場：県立広島大学 広島キャンパス（広島市南区宇品東 1-1-71）
学内には来客用駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

◆内 容：

回	月 日	テ ー マ
1	5 月 25 日	『源氏物語』に憧れた少女ー『更級日記』を読むー
2	6 月 22 日	中島敦の文学の魅力ー「弟子」を中心としてー
3	7 月 27 日	志賀直哉『和解』を読む
4	8 月 24 日	日本の近代詩を読む
5	9 月 28 日	大人が読むムーミンの世界
6	10 月 26 日	『西遊記』を通してみる中国古典小説
7	11 月 30 日	歴史を読み変える：島田雅彦の『彗星の住人』を読む
8	12 月 21 日	村上春樹を読むために
9	1 月 25 日	梶山季之と朝鮮

- ◆受講料：無料
- ◆募集人数：各回 30 人程度
- ◆対 象：どなたでも
- ◆申込方法：往復はがきで、往信面の裏に①郵便番号、②住所、③お名前、④ふりがな、⑤電話番号、

⑥参加希望回と月日を、返信面の表に受講される方の郵便番号、住所、お名前（「〇〇〇〇様」）をご記入の上、5月10日（月）（消印有効）までに次のところにお送りください。

〒734-8558 広島市南区宇品東 1-1-71
 県立広島大学地域連携センター「文学講座」係
 電話（082）251-9534

(返信) ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 様	(往信面の裏) ①郵便番号 ②住所 ③名前 ④ふりがな ⑤電話番号
-------------------------------------	--

申込多数の場合は回ごとに抽選し、5月中旬に結果をお知らせします。なお、定員に余裕がある場合は随時、追加募集を行います。

※申込にあたってお寄せいただいた個人情報は県立広島大学公開講座のご案内以外の目的には使用しません。

- ◆同時開催：図書館では、講座のテーマに合わせて関連図書コーナー等を設置します。ご利用ください。

《主催：県立広島大学地域連携センター、広島キャンパス図書館》

5月25日(火)

『源氏物語』に憧れた少女
—『更級日記』を読む—
西本寮子

『源氏物語』の名が文献上で最初に確認できる寛弘5(1008)年は、『源氏物語』を耽読したことで知られる菅原孝標女が生まれた年でもあります。薫や浮舟に憧れた少女は後に、自らもいくつかの物語を作りました。孝標女はどのように『源氏物語』と向き合い、なにを読み取ったのでしょうか。『更級日記』(角川文庫ソフィア, 原岡文子訳注)を通して考えます。

6月22日(火)

中島敦の文学の魅力
—「弟子」を中心として—
柳川順子

現代に中国古典を学ぶ者として、私は中島敦の文学に深い魅力を感じます。彼の小説には、近代的文脈においてもなお輝きを失わない、中国古典ならではの英知の結晶がきらめいています。本講では、その中から「弟子」(『山月記・李陵 他九篇』岩波文庫所収)という短編を取り上げて味読します。

7月27日(火)

志賀直哉『和解』を読む
下岡友加

日本近代を代表する作家・志賀直哉の小説『和解』(新潮文庫/角川文庫)を読んでみませんか? 作家自身の父との和解までの過程が描かれた作品ですが、それは赤児の死を乗り越え、人間として成長していく主人公の内面劇でもあります。和解はどのようにして可能となり、またそれは小説のなかでどのように表現されているのでしょうか? 小説の語りの方にも着目しながら、大正時代の家族の在りようを見ていきたいと思います。

8月24日(火)

日本の近代詩を読む
坂根俊英

日本の近代詩は明治15年発行の詩集『新体詩抄』から始まります。以来今日まで変遷をとげながら多彩な詩の花々を美しく咲かせてきました。代表的な詩人としては藤村、白秋、朔太郎、光太郎、賢治などがいます。昭和になると中原中也、三好達治、立原道造などが登場します。なにかとあわただしい現代社会ですが、ほんのひとときでも心を休めて、なつかしい香りのする詩の世界に浸ってみませんか。

9月28日(火)

大人が読むムーミンの世界
田淵桂子

日本では40年前にテレビアニメとして登場し、今でもキャラクターグッズが人気のムーミン。けれども、ムーミンの物語には、ほのぼのとしたあたたかさだけでなく、悲しみ、怒り、辛辣さなど、人間の多面性が描かれています。作者トーベ・ヤンソンの人生や執筆活動も辿りながら、大人が読むムーミンの世界を味わってみたいと思います。『ムーミン童話全集』(講談社)の、おもに後半の作品を扱います。

10月26日(火)

『西遊記』を通してみる
中国古典小説
丸山浩明

中国の古典小説として『三国志』『水滸伝』などと並び称される『西遊記』を取り上げ、物語が形成される背景や構成上の特徴を考えます。この特徴を知っておくと、中国の古典小説への取り組み方が楽になります。

11月30日(火)

歴史を読み変える: 島田雅彦の
『彗星の住人』を読む
高橋 渡

島田雅彦の無限カノン三部作の最初の作品『彗星の住人』(新潮文庫)を読み、その技法と主題の分析を通して、現代文学の抱える問題とその特徴について考えてみたいと思います。

12月21日(火)

村上春樹を読むために
遠藤伸治

村上春樹は、現在、世界的に高い評価を受けている作家です。村上春樹のデビュー作『風の歌を聴け』(講談社文庫)を読んで、その表現上の特徴と現代性を理解し、評価の高まっていくその後の作品を、より深く読むための道しるべとしましょう。

1月25日(火)

梶山季之と朝鮮
原田 環

梶山季之(1930-1975)は、生前、文筆家として腕をならしました。彼が残した文学作品の中に朝鮮を素材に取りあげたものがいくつかあります。これらの作品と彼の朝鮮体験について検討します。